

(様式3)

合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート

評価実施年月：平成22年2月

1. 対象事業	習志野市津田沼・高瀬処理区合流式下水道緊急改善計画
2. 実施主体名称	千葉県習志野市
3. 計画期間	平成17年～平成25年
4. 対象事業の進捗状況	平成21年度までの緊急改善対策は、全ての雨水吐（9箇所）に夾雑物の削減対策を実施する計画としている。 平成17年度にスクリーンを1箇所設置。（高瀬処理区） 平成20年度に水面制御装置1箇所設置。（津田沼処理区） 平成21年度に水面制御装置7箇所設置。（津田沼処理区6箇所、高瀬処理区1箇所） 全ての雨水吐に夾雑物等除去施設を設置し期間内に夾雑物の削減対策は完了した。
5. 目標の達成状況と達成の見通し	①汚濁負荷量の削減 BOD汚濁負荷量 当面の目標値 331kg/年 → 平成21年現況 313kg/年（達成済） ②公衆衛生上の安全確保（未処理放流回数） 雨水吐合計 当面の目標値 209回 → 平成21年現況 96回（達成済） 終末処理場 当面の目標値 0回 → 平成21年現況 37回（未達成） ③夾雑物の削減（対策を講じた雨水吐の箇所数） 雨水吐の箇所数 全9箇所 → 平成21年現況 除去施設等設置箇所数 9箇所（達成済） ※公衆衛生上の安全確保（未処理放流回数）の未達成は、雨水滞水池を一部改造することにより、平成25年度に目標値の0回となる見通しである。
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	①汚濁負荷量の削減 6Q遮集及び雨水滞水池（Ⅲ型）12,000m <sup>3</sup> の設置により、「対策無し」から汚濁負荷量129kg/年の削減が図られた。 ②公衆衛生上の安全確保 遮集量を6Q遮集へ増加させることで、雨水吐の未処理放流回数を「対策無し」から326回（7箇所の合計）の削減が図られた。 ③夾雑物の削減 夾雑物除去施設を全ての雨水吐に設置し、夾雑物の削減が図られた。
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	既存施設を有効利用することにより、事業コストの縮減を図ります。
8. 今後の方針	既存施設を有効利用し、平成25年度の対策期限までに全ての目標を達成します。 今後は、既存雨水滞水池の一部改造を行い、容量12,000m <sup>3</sup> の内、9,000m <sup>3</sup> を簡易水処理施設に改造し、終末処理場の公衆衛生上の安全確保対策を実施します。